

新潟市口腔保健福祉センター年次報告（概要）
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

1 利用実績

(1) 急患診療

	診療日数	利用患者数	一日平均患者数
令和4年度通年	72日	591人	平均 8.2人
平常の休日	46日	273人	平均 5.9人
連休及び1日飛び休日	19日	183人	平均 9.6人
お盆（平日）	3日	34人	平均 11.3人
お盆（休日）	0日	0人	平均 0.0人
年末	1日	40人	平均 40.0人
年始	3日	61人	平均 20.3人

性別年齢別患者内訳

	男	女	計
6歳未満	32	21	53
6～17歳	27	19	46
18～64歳	185	187	372
65歳以上	56	64	120
計	300	291	591

(人)

年間利用患者数は591人で、前年の608人とほぼ同じだったが、コロナ禍前の令和元年度の1075人と比較し、利用者数は減少が続いている。一日平均患者数は8.2人で前年の8.4人とほぼ同じだった。新型コロナウイルス感染症の影響が、依然として続いていると考えられる。特に県外の利用者は少なく、年間で19名だった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りで19歳～64歳が63%であった。疾病別では、う蝕、その他（炎症性疾患、義歯関連など）、歯周疾患の順が多かった。三次医療機関への紹介数は11件だった。

(2) 特別診療

	診療日数	半日診療回数	利用患者数	半日平均患者数
令和4年度通年	210日	257回	1723人	平均 6.7人

性別年齢別患者内訳	男	女	計
6歳未満	21	5	26
6～17歳	273	112	385
18～64歳	709	448	1157
65歳以上	90	65	155
計	1093	630	1723

(人)

障がい別患者内訳	(人)
知的障害	619
発達障害	572
精神疾患	60
神経難病	17
染色体異常	167
感覚障害	5
認知障害	64
四肢麻痺	206
その他	13

年間のべ患者数は1723人で、昨年の1769人に比べてやや減少したが、コロナ禍前の

令和元年度の利用者数1733名とほぼ同じだった。年齢別内訳は、ほぼ例年通りであった。疾患別のべ患者数は、例年同様、う蝕と歯周疾患がほとんどであった。障がい別患者内訳は、知的障がい、発達障がいとほぼ同程度で多かった。

往診（摂食嚥下評価）は、対象施設は介護老人保健施設「緑樹苑」、特別養老ホーム「黒崎の里」、特別養護老人ホーム「まつはま園」、特別養護老人ホーム「ばんだい桜園」、介護老人保健施設「白根ヴィラガーデン」の5施設を対象とし、月2回往診を行った。年間のべ往診患者数は87人だった。

2 利用料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

別紙参照

3 総括・自己評価

急患診療、特別診療ともに大きなトラブルはなく、業務を行うことができた。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら診療を行った。

特別診療における今年度の一次、二次及び三次医療機関への紹介数は、それぞれ8件、0件、23件、合計31件であった。今後も、他医療機関との連携体制の構築を図り、二次医療機関としての役割を果たしていきたい。

往診（摂食嚥下機能評価）は月2回実施し、1回の往診につき2から3回、嚥下内視鏡（VE）を用いた嚥下評価を行っている。地域で摂食嚥下障害に対応できる人材育成を目的とした往診時の歯科医師の帯同は、新型コロナウイルス感染症対策のため、実施しなかった。

「高齢者福祉施設・障がい者福祉施設に対する歯科保健事業」の口腔健診・研修事業の実施件数及び参加者数は27施設、335人だった。口腔ケア研修事業の実施件数及び参加者数は25施設、219人だった。両事業とも実施後のアンケートは、好評だった。集合型の口腔ケア研修会は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン形式で実施した。参加者は26名で、参加者の所属内訳は訪問介護7名、訪問看護7名、その他が12名だった。オンライン形式での開催は好評だった。